

FUTURE VISION

特集 恐竜の時代



恐竜と地球の環境

おススメの本 せいめいのれきし 改訂版
深読み！絵本『せいめいのれきし』

ことばノート『〇〇紀』



日本の推し地層

やってみよう！

言の葉講座

— アスミー先生の作文チャレンジ

ホームルーム

「教え子の論文から学んだこと」

麗澤瑞浪中学・高等学校 校長補佐
愛知県立大学 教職専門指導員
渡邊康雄先生

教え子の論文から学んだこと

麗澤瑞浪中学・高等学校 校長補佐

愛知県立大学 教職専門指導員

渡邊 康雄

1963 年。愛知県出身。

最終学歴：愛知教育大学

「先生に渡したいものがあります。」

そう言って中学校の教え子から手渡されたものは、「スポーツの力を活用した社会貢献」という論文。手渡される際には「ぜひ感想を教えてください。」と一言添えられていた。

成長した彼の姿が嬉しくなり、すぐ論文に目を通したが、残念ながら物足りなさを感じた。「物足りない」という表現は適切ではないかもしれない。

彼の名誉のために言っておくと、論理的かつ綺麗な言葉で書き綴られており、論文としての評価は悪くないだろう。しかし、そう感じたのには理由がある。

彼はプロ野球選手を多数輩出した高校で野球に没頭していた。努力、忍耐という言葉では表現できないような辛い経験、体が震えるような感動を味わったことだろう。しかし、論文だけを読んだ人には分からないだろうが、彼がどれだけ野球に打ち込んできたかを知っていただけに歯がゆさを感じた。

そこで、「こういう表現の方が、あなたらしさが伝わるぞ」と具体例を書いて送った。

その後、忘れた頃に送られてきたメールには、こんなことが書いてあった。

「うぬぼれかもしれませんが、正直褒めてもらえてと思っていました。一人の大人として、先生と教育の話ができればと思っていましたが、自分はまだ先生と対等に話ができるレベルには達していない人間だと落ち込んでしまい、今日まで返事が遅れてしまいました。」

しかし、あんなに真剣に読んで意見をくれるのも先生です。そう理解するのに半年という時間が必要でした。大変申し訳ありませんでした。

いつか、先生と生徒という関係ではなく、一人の大人として、先生と話ができるよう成長していきたいと思います。」

「感想を教えてください。」と言われたので、精一杯の感想、意見を伝えた。それが彼に対する誠意だと思ったから。でも彼が本当にほしかったのは「すごいなあ」「成長したなあ」っていう一言だったのかもしれない。どこかで自分は上から目線で、彼を見ていたかもしれないと反省した。

武田鉄矢さんがこんな話をされていた。

「来客から『のどが渴いたから水を1杯いただけますか？』って言われたら、水を出すのではなく、『冷たい麦茶いかがですか？』って対応するでしょ。『水がほしいと言われたから水を出す』は日本語としては正しいでしょうが、物事の真意は違うところにあります。だから、日本語って本当に難しいんですよ。」

教え子とのやりとりのように、言葉には表れていない相手の思いをくみ取ることは、とても難しいこと。しかし、難しいからこそ、相手の思いに対して真剣に耳を傾ける謙虚さを忘れてはいけない。さらに、正しいことがいつも正しいとは限らないと、肝に銘じなくてはならないと感じた出来事だった。

